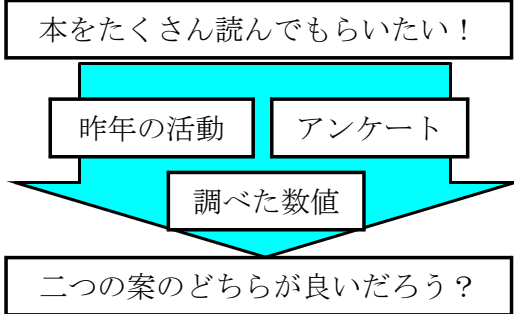


授業改善のポイント 第5学年

資料と本文を関係付けて読み取る力を付ける

まず、本文がどんな場面設定なのかをとらえさせます。次に、資料と本文を読み比べます。キーワードや数字を取り出したり、結び付けたりして整理させることが大切です。

① 本文はどんな場面？ 資料は何？



② 意見の根拠となっている資料はどれ？



それぞれの意見は、資料をもとに考えているよ。だから、意見と同じ言葉や数値を資料から探して、矢印で結び付けると分かりやすくなるね。

- ② 100冊以上借りた人への賞状わたし
 - ・ 100冊を目指してたくさん借りている。
 - ・ 賞状をもらえてうれしかった。… **ウ**
 - ・ 厚い本だと100冊は借りられない。… **エ**

- ③ けいじ板での本のしょうかい
 - ・ しょうかい文は読んでいて楽しい。いろいろな本があることが分かる。
 - ・ しょうかいがもっとくわしい方がいい。… **オ**
 - ・ しょうかいされた本が貸し出されていることが多い。… **カ**

赤木さん
賞状をもらえてうれしかったという声もあります。

夏目さん
けいじ板ではできなかったくわしいしょうかいも、本を見せながらできるのでよいと思います。

③ 数字をつかって伝えていることは何？



数字は具体的で説得力があります。表やグラフの数字を使って、何を伝えようとしているのかを見つけることが大切です。

【資料3】好きな本の種類について (全校児童調べ)

種類 学年	絵本 (人)	物語 (人)	自然 科学 (人)	歴史 伝記 (人)	その他 (人)	合計 (人)
1、2年生	63	38	21	3	4	129
3、4年生	18	51	40	7	12	128
5、6年生	9	50	19	22	26	126
合計	90	139	80	32	42	383

秋本さん
「資料3」を見ると、ほかの学年に比べて、アは、一、二年生に好きな人が多く、イは、五、六年生に好きな人が多いのが分かります。

資料，体験や予想を基に，理由や立場を明確にして記述する力を付ける

次に，自分の考えを持たせ，記述する材料を用意させます。たくさんの意見を整理して，考えの根拠を見つけたり，反論に対する反論（反ぱく）を用意させたりします。

① 図や表を使って，意見を整理しよう

<話し合いのまとめ>

読書マラソンカード		
<ul style="list-style-type: none"> 厚い本を借りている人や本を借りられない人にもはげみになる。 賞状をもらえる人がふえる。 目標がはっきりするので，読書をししようという気持ちになる。 	活動のよい点	ねらい 全校のみんなにたくさん本をよんでもらおう
<ul style="list-style-type: none"> 本を読むたびにページを記録しなければならぬ。 借りるたびにカードをもっていかなければならない。 	活動の問題点	
<ul style="list-style-type: none"> ↓本の最後のページ数を書くようにする。 ↓図書館にカードを置くなど工夫する。 ↓計算に電卓<small>でんたく</small>を使ったり，図書委員が手伝ったりする。 	問題点の解決策	

よい点と問題点は表を使うと分かりやすいね。この方法は，学級会などのいろいろなところで使えるね。



② 自分の考え（立場）を決めよう

白石さん
 ぼくは「読書マラソンカード」に賛成です。ぼくは体育の時間にマラソンカードに何周走ったか記録することで，目標にむかっけてがんばることができたという体験があります。これは，目標がはっきりしている活動なので，読書をししようという気持ちになると思います。

よい点と問題点を見比べて，自分の立場を決めよう。これまでの自分の体験を思い浮かべて，「よい点が多い」「ねらいに合っている」などを基準に考えさせましょう。



③ 問題点の解決法を考えよう

赤木さん
 ページの記録は，本の最後のページ数を書くようにすればそれほどむずかしくないと思います。また，図書館に置くなどカードを持って行かなくともよい工夫をすればどうでしょう。合計の計算には図書室に電卓でんたくをおいたり，図書委員が手伝ったりすれば，一、二年生でも計算できるのではないのでしょうか。

ほとんどの場合，それぞれの立場にはよい点と問題点があるよね。自分の立場の問題点については，自分なりの解決策を考えておこう。



段落の役割を理解し、意見文を構成する力を付ける

文章を書く時には、書き方や条件、文字数が決まることがあります。それに合わせて、自分が書く内容を並べ替えたり、書き直したり、書き加えたりしなければなりません。

① 書き方や条件を理解しよう

今回は① 350字程度書く。②「始め-中-終わり」の3部構成で書く。③中を2つの段落にする。が条件だね。



② 組み立て表を使おう

終わり (4段落)	中		始め (1段落)
	(3段落)	(2段落)	
と、くになると思います。	このように理由から、マラソンカード案(またはブックトーク案)にする	たしかに、マラソンカード案(またはブックトーク案)には、くという問題点があります。しかし、くすれば、くできると思います。	理由は、くです。 (体験の場合)わたしは前にくでした。 (予想の場合)もしくすれば、きつとくと思います。
意見をまとめる。	反対意見を予想して反論を入れる。	賛成する意見の理由を明らかにする。	自分の意見をはっきり述べる。

【組み立て表】(例)

右のような書き方の例を示し、参考にして書くようにさせます。各段落の役割を意識し、特に「中」に何を書くのか、どのように書くのかを「組み立て表」から考えさせます。



③ 原稿用紙の見通しをもとう

終わり (4段落)	中		始め (1段落)
	(3段落)	(2段落)	
このように理由から、	たしかに、しかし、	わたしは前に	わたしは、
理由から、	しかし、	理由は、	理由は、
理由から、	しかし、	理由は、	理由は、
理由から、	しかし、	理由は、	理由は、
理由から、	しかし、	理由は、	理由は、
理由から、	しかし、	理由は、	理由は、
理由から、	しかし、	理由は、	理由は、
理由から、	しかし、	理由は、	理由は、
理由から、	しかし、	理由は、	理由は、

書き始める前に、「始め-中-終わり」がどのくらいの場所に来るのか目標を立てよう。
5年生は、15分で350字くらい書けるといいね。1文が1行~2行で10文くらいになるね。



説得力のある文章になっているか見直す力を付ける

問題文で指示された形式と内容で書かれているか見直します。特に「中」の書き方と表現が、具体的で説得力のあるものになっているか確かめます。

わたしは、読書マラソンカードを使って記録する案に賛成です。
理由は、読んだページ数がどんどんふえていくので、自分がどのくらい読んだかが分かるからです。わたしもマラソン大会の練習の時にカードを使いました。自分がどのくらい走ったか分かるのでがんばろうと思いました。もし読書マラソンカードを使えば、マラソンの時と同じように、きつと多くの人が進んで本を読むと思えました。

たしかに、読書マラソンカードは、合計の数を計算しなければならぬという問題点があります。しかし、**電卓を使ったり、図書委員が手伝ったりすれば**、計算が苦手な人でも、合計を出すことができます。思います。

このような理由から、読書マラソンカードを使うようにすると、自分が読んだページ数が目に見えて分かるようになります。そうすることで、**どんどん本を読みたくなり、貸し出し数もふえていく**と思います。

【終わり】
前の3つの段落をまとめた文が書かれているか。

【中2】
自分が賛成する立場の問題点に対して、自分なりの**解決策**が書かれているか。

【中1】
自分が賛成する立場の良さが伝わるように、**体験**や**予想**が書かれているか。

【始め】
自分の立場をはっきりと書いているか。

構成した時に意識した段落をもとに、説得力のある文になっているか見直そう。



ぼくは、ブックトークで本をしようかいる案に賛成します。
理由は、いろいろな種類の本をしようかいることで、たくさんの人が本を読んだり、借りたりしたくなると思うからです。ブックトークでは、それぞれの学年で人気の少ない歴史伝記といった種類もしようかできます。ブックトークをすれば、**そうした人気の少ない種類の本も読みたい**と思うはず。そして、**たくさんの人が本を借りるようになる**でしょう。

たしかにブックトークは、**図書室に来た人**にしようかいることができません。しかし、**日を決めて、それぞれの学年の教室でブックトークをすればよい**と思います。そうすれば、**図書室に行かない人にも、本をしようかいる**ことができます。

このように、ブックトークをすると、**しようかされた本を読んでみたい**という人がふえると思います。

